

# 2021 年 救急センター業務活動報告

救急センター長  
大 山 浩 史

## はじめに

本稿では 2021 年の救急車受け入れ状況を振り返る。

### 1. 救急車受け入れ状況

図 1 にあるように例年よりやや多い受け入れ状況で始まった。前年より受け入れが少なかった月は 2 月のみで、総計では 2000 例を大きく上回る 2311 例となった。

### 2. 2021 年のトピック

2019 年に製鉄記念室蘭病院の整形外科縮小があり、それ以降、当院整形外科に負担がかかっている状況が継続しているが、本年も 1 月、2 月に整形外科受け入れの許容範囲を超える状況があり、受け入れを制限することとなった。7 月に循環器系担当医師として本川医師が着任され、当院かかりつけ透析患者さんの救急受け入れを中心に四肢血管、大血管の受け入れも一部開始となっている。

### 3. COVID-19 感染症の影響

1 年間、COVID-19 の対応におわれた 1 年になった。

発熱患者さんへの対応は、PCR 検査、抗原検査の充実、システムの構築などによりかなり安定してきた。中等症の患者さんが胆振でも増加し、一時一般病棟を感染病棟に変更せざるを得なくなり、消化器内科の入院に制限が加わった。

### 4. ドクターカー、ナースカーの運用

昨年実績はドクターカー 3 例、ナースカー 1 例の出勤となった。まだまだ、この地域での需要があると考えられるため、消防・救急との連携を深めていきたい。

### 5. 今後について

昨年度の活動報告でも述べたが、医師の確保、看護師をはじめとするコメディカルの確保が待ったなしの状況である。この解決は一筋縄ではいかない。地域の医療機関の再編も一つの方法だが、おそらくはそれだけでは解決しないであろう。地域住民が満足し、医療従事者も満足できる環境を整備しなければ。魅力のある病院。魅力のある救急を目指して今後も活動していく。

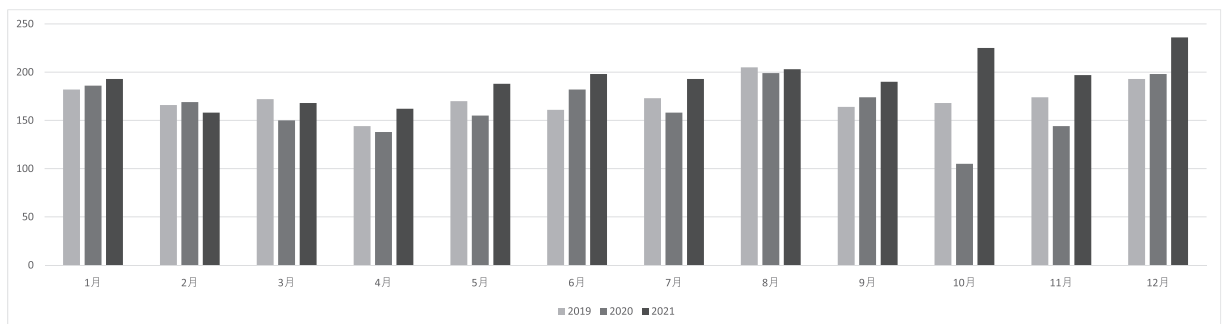


図 1 救急車受け入れ件数